

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.797 2020

2020年6月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



## #はなれていてもつながっている



全国にいる約2000人の留学生にお米が届いた（写真／福山YMCA）

### OPINION

## ポジティブネットのある豊かな社会を創る 日本YMCA同盟 総主事 田口 努

### 新型コロナウイルスによる世界の変化

2020年はオリンピック・イヤーとして希望をもって迎え、半年が過ぎた今、誰もが想像しなかった世界が目の前に繰り広げられています。1月に中国・武漢で発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、瞬く間にアジア、世界に広がり、世界同時パンデミック（5月時点で440万人感染、30万人死亡）となりました。第2次世界大戦以降、最大の世界的、歴史的危機と言われる状態で、感染拡大防止のための都市のロックダウンは、隣人、地域住民、国内外を問わず市民の交流を遮断しました。さらに、このような物理的な分断によって感染への不安は増大し、自分を守るために他者に対して攻撃的になり、差別や偏見が生まれ、ヘイトスピーチが起きるような心の分断も生じています。

### 困難な状況に耐える力“ネガティブ・ケイパビリティ”

このような未曾有の状況にありながらも、医療関係者を中心とした、社会を支えてくださる方を励ますように、絵をかいたり、動画で感謝を伝えたり、分断から新たなつながりや連帯を構築する働きも広がっています。ネガティブな状態をポジティブに変化する力として、ネガティブ・ケイパビリティ (Negative capability) という言葉があります。第2次世界大戦後、詩人ジョン・キーツが、「不確実なものや未解決のものを受容する能力、答えの出ない事態に耐える力」と記述した言葉です。未来が予想しにくいような困難な状況にあって、最も必要なのは、人々の声を聴き「共感する」ことであり、この共感から行動という形に思いが成熟する過程は、人々に寄り添い伴走することにより、その困難な状況に耐える能力となる、とされています。

### #はなれていてもつながっている

そのような思いで、日本YMCAでは、「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを始めました。全国のYMCAにおいて、自宅を過ごす子どもたちや家族、そして会員の心と身体と精神の健康のために、運動や語学などの動画を配信し始めたことを皮切りに、オンラインによる双方向のつながりの確保など、「一人ではない」という思いを伝えました。そこに多くのユースも参加し、子どもたちや家族を励まし続けています。もう一つは、全国のYMCAの関係者がオンラインでつながる「YMCA 共同の祈り」です。自宅にいながら他者のために祈り、できることを示して新しいつながりの構築を目指しています。毎回、子ども、ユース、女性、シニアボランティアといったテーマを設定し、そのテーマの対象となる方々から、現在の生活の様子や取り巻く困難さなどを聴きとり、祈り、行動につなげようという取り組みです。この祈りを通して、YMCAに連なる留学生が生活苦にあることを知り、翌週には約2,000名の留学生にお米を配るといった具体的な支援活動にもつながりました。



170年前、産業革命で困難の中にあつた青年たちのために、同じ時を過ごす青年たちが、祈り、寄り添い、行動したことがYMCA運動の原点です。

いま私たちは改めて原点に還り、ICTなど新しいテクノロジーを活用したつながりの手段も得て、人々に寄り添う働きを一步一步強め、ポジティブネットのある豊かな社会を構築する働きを継続していきます。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org>

## 保護者のみなさまとつながりながら

仙台YMCA 高橋 祐子さん

**自**宅保育をお願いした3月には、幼稚園近隣の広場に保育者が向向き、保護者と待ち合わせ、1時間程度の預かりを行いました。保護者にはとても喜ばれました。このような短時間の外預かりなどは、緊急事態宣言が解かれた時には、またやってみようと思います。

最初は園便りを送っていました。「少しでも保育に息抜きを」と考え、子どもたちには塗り絵や粘土遊びなどの教材を、そして保護者の方にも思い「大人のぬりえ」もお渡ししたりしました。そのうちに「保護者のみなさまの声を聞きたい」と、連絡アプリで発信したところ、「子どもを叱ってしまう」という悩みや、「みんながつながっている気がした」などの声を聞くことができました。その時に集めた声は保護者のみなさまにフィードバックさせていただき、希望の多かったZoomを活用した双方向のコミュニケーションも開始しました。

長い休みになり、子どもだけではなく、大人たちも心の行き場をなくしているように思います。定期的に保護者のみなさまへ電話がけをしています。4月より5月に入った今の方が、抱えている困りごとが深刻です。一つひとつの声を傾けて、幼稚園にできることをみんなで考えています。

保護者のみなさまを励ますつもりで始めた取り組みでしたが、たくさんの温かい声も届き、私たちが励まされています。今とても、つながる大切さを実感しています。

## 安心して会える日を楽しみに

熊本YMCA 木村 成寿さん

**熊**本地震から4年が経ち、当時を振り返る時期ではあるが、今はそれ以上にひどい状況だと感じています。人口70万人の熊本市に40人の罹患者がいます。首都圏から遅れて感染の波が来ているという状況です。阿蘇、熊本市幼稚園、保育園で、通常の3割程度の子どもの預かっています。とにかく罹患しないように、とスタッフは神経をとがらせています。

また、それぞれの事業も、いつ再開できるのかわからないことが、一番の不安を生み出していると思います。幼稚園では、保護者の方々の不安が「家庭だけではもう無理」という声にも聞こえてなりません。

65歳以上のウエルネス成人会員の方は、休会など、直接会館まで手続きにいらしゃいます。インターネットでの手続きが難しい世代です。ある日、会員のご婦人が、プログラムに参加していた時に比べて、明らかに足腰が弱っている様子で、杖を

## 大変な今だから、全国のリーダーとつながりたい

盛岡YMCA 齋藤 七穂さん(おむすびリーダー)

**コ**ロナウイルス感染拡大の影響で、4月20日から始まる予定だった大学の授業も、5月7日からオンライン授業開始と変更になりました。1人でオンライン授業の環境を整えることや、大学からサポートが十分に受けられるのかなど不安はたくさんあります。リーダーの中にも、知り合いが東京にいるなど、心配ごとが絶えずに精神的に参っている人や、どうしてもバイトに行かなくてはいけないと心配している人もいます。若手では、感染者が出ていないので、自分が最初の感染者になることをとても恐れています。

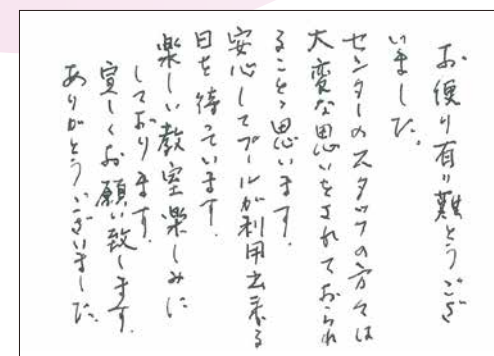
現在は、各リーダーの個性を生かして動画を作る活動をしています。最初の動画を作った時は不安でしたが、みんなだんだん慣れてきて、最近はチャンネルのフォロワーも増えてきてうれしいです。TwitterやInstagramで、多くの新1年生、また、一緒に活動してきた子どもたちへ届けたいです。

先行きが見えず、どうなっていくかわからない状況の中で、すっきりしないまま過ごしています。リーダー同士のつながりも薄くなるのではないかと心配しています。でも、この状況の中でこそ、他のYMCAと一緒に、リーダー全体で何かをしたいです。オンラインを活用して、違う場所でYMCAリーダーをしている人たちと交流をし、全国のリーダーたちとぜひつながりたいと思っています。そして将来、あんなに大変な時にお互い頑張ったよね、と言い合いたいです。



リーダーチャンネルで元気を配信(おむすびリーダー)

ついでお見えになりました。オンラインで配信している情報は届かないかもしれない、と20代のスタッフが手書きでハガキを出したところ、「安心してプールの利用ができる日を楽しみにしています」と早速、お返事をくださいました。スタッフ一同、本当にうれしい気持ちになりました。ICT化が急速に進む中にあるからこそ、新しい「つながり」の創出をも感じた出来事でした。「回復」と「つながり」のプロセスを、使命感を持って進めることが問われているのだと感じています。



実際に届いたハガキ

# #はなれていても

## 全国のYMCAの今 — 現場ヒアリングより

コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、日本のYMCAは全国203拠点のうち7割が開館しています。主にチャイルド・ケア部門で社会インフラを維持するために仕事をする人の子ども、特別支援の必要な子ども、家庭での保育がままならない子どもの預かりなど、1万人近い人々に支援を続けています。

今までの会員との交わりの深さは、YMCAの原点です。ウエルネス、学校事業では、オンライン会議システムを活用したり、接触しないプログラムを工夫したり、動画の配信をスタートするなど会員の方々、地域の方々とのつながりの回復を始めています。

いまこそポジティブネット。

全国のYMCAでは今のように会員の方々とのつながり、関わっているのか。そしてどんな声が届いているのか。4月20日~28日の間にオンライン会議システムを利用し、全国の現場の声をうかがいました。

# つながっている

### 留学生へお米の支援が届く

広島YMCAが留学生に行ったアンケートでは「アルバイトが減った」「アルバイトがなくなった」と答えた留学生は約87%にのぼり、生活への不安を抱えていることがわかりました。そのような中、日本国内のYMCA留学生へのサポートとして、コストコホールセールジャパンより国産ブランド米をご寄附いただきました。全国にいる約2,000名の留学生へ、1人5kgずつのお米を届けることができました。



どを使わない人もいます。この状況がいつまで続くかわかりませんが、どう対策を立てたらよいのかわかりません。

ベトナムの家族も心配していますが、今は世界中がコロナウイルスの影響を受けているので、もうしばらく自分で頑張ろうと思っています。来年の就職に向けて、学校の先生に助けられています。ベトナム人同士がFacebookでつながり、少しでもお金を助け合う仕組みもあります。お金の問題はとても難しいですが、人によって状況は違うので、みんなの意見を聞いてほしいと思います。

## つながりは希望 YMCAせとうち 白鳥 雅人さん

**4**月26日、YMCAせとうちとして初めて臨んだオンラインによる野外活動は、30分という短い時間ではありましたが、確かにみんながつながった瞬間でした。

新型コロナウイルスの感染拡大防止への取り組みが全国に広がる中、これまで、「三密」こそがよしと考えてきた私たちの文化を、根底から問い直す日々が続きました。「今、みんなは何を求めているのか」「はなれていても、つながっている」を実感できるために、私たちに何ができるのか。その間の中から生まれたのが、今回のオンラインによる野外活動でした。

この取り組みに力を貸してくれたのは、岡山市のライブハウス「トルネード」でした。コロナウイルスが流行し始めた頃、複数のライブハウスでクラスターが発生したために、ここでもすべての活動が停止。しかし、もともと音響や映像配信を手掛けて

いたため、今回、私達をバックアップしてくれたのです。

久しぶりに画面の向こうに見えた友だちやリーダーの顔に、子どもたちの興奮は収まりません。い

つもみんなで歌っている歌を歌い、ゲームをし、コロナによって台湾でピンクのマスクをつけていじめられた子どもの支援として広がったピンクシャツならぬ「ピンクマスク」についてメッセージを発信しました。

参加した保護者からは「この未曾有の事態の中、YMCAとつながっていることが、子どもにとっても保護者にとっても、明るい希望を与えてくれています」「自粛で閉塞した毎日に、窓が開いたようでした」といううれしいメッセージをいただきました。周りの状況が目まぐるしく変化する中で、私達も変わり続けること、弱く小さいもの同士がつながっていくことで、考えもしなかった希望の光が見えると信じています。



参加した子どもたちは総勢87名、リーダーは24名

## TOPICS

### 「きっと明日はいい天気」コンサート 東京YMCA

全国に緊急事態宣言が出された直後、4月12日、子どもたちや子育てに関わる皆さんを励ましたい、そのような願いから、東京YMCAがYouTube上でのライブコンサートを開催し、全国へも発信されました。

「にじ」「世界中の子どもたちが」「さよならぼくたちのようちえん」などで著名なシンガーソングライター新沢としひこ氏が、手話付きや絵本コーナーなど工夫を凝らし、YMCAの学童クラブや保育園児たちの絵や写真も登場し、約700名の方が視聴し、親子が楽しみました。



配信日時/4月12日(日)15:00~ 主催/公益財団法人東京YMCA

### 駐日イタリア大使がYMCAにメッセージ 日本YMCA同盟 国際賛助会



イタリア大使館にて、5月5日、日本とイタリアの医療従事者とそのご家族のために、感謝の歌のプレゼントの撮影を行いました。テノール歌手の佐野成宏氏が「ふるさと」「見上げてごらん夜の星を」「オーソレミーヨ」を歌い、駐日イタリア大使のジョルジョ・スタラーチェ氏より、「医療従事者はイタリアでも日本でも、集中治療室で治療に日夜あたっています。それはまさに英雄的と呼ばれるべき働きです。その家族、お子様を支えるYMCAの取り組みにも感謝です」とコメントが寄せられました。

### サッカークラスで 医療従事者メッセージリレー 大阪YMCA

「はなれていてもつながっている」キャンペーンの一環として、大阪YMCAサッカークラスの子どもたちとユースリーダーが、医療現場を応援するために、自宅や近くの公園で一人ずつ、その数60人がボールのパスをつなぐ動画を5月5日「子どもの日」に配信し、大きな反響を呼びました。



## YMCA We Are Connected Campaign

In the midst of a life-threatening situation that no one has ever experienced, some YMCAs in Japan needed to be closed and business suspended.

Under such a situation, we have provided more than 10,000 people with assistance, such as nursery schools, school children, after-school day children, and senior citizen businesses which support the social infrastructure for medical and administrative work.

And we started distributing videos from YMCAs nationwide. The videos included physical exercise and language classes to improve the health for children, families and members at home for securing online connections in both directions. We conveyed the thought, "you are not alone."

In addition, we aim to build new connections by praying for others and showing what we can do while staying at home.

People concerned about YMCA gather and hold online "joint prayers".

Five themes such as children, youth, women, and senior volunteers have been set in the joint prayers and it is an initiative to listen to the people about the current difficulties from each theme. Our prayers will be connected to an action.

Through our prayers, we learned that foreign students connected to YMCA had difficulties so the next week, we distributed rice to 2,000 foreign students that led to concrete activities by our prayer gathering.

170 years ago, in the Industrial Revolution, those who spent the same time praying supported, and took action for the youth in difficult times which was the origin of the YMCA movement.

Once again going back to the starting point, we would like to build a society with a positive network taking steps closer to people.

Secretary General *Tsutomu Taguchi*

**Resilient YMCA** | 世界YMCA同盟が提唱する、「困難な状況のときに、課題を柔軟に受け止め、コミュニティのために互いに支え合い、助け合うことを通して、道を切り開くYMCA」のこと。「#はなれていてもつながっている」キャンペーンでは、日本に暮らす外国人、世界の仲間たちに向けて多言語で発信していきます。

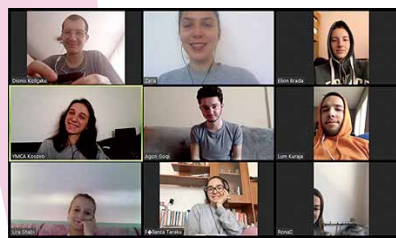
#WeAreConnected

#WeAreConnected

#WeAreConnected

### コソボ・未来のチェンジエージェント研修 — デジタルを使って

コソボの若者はいま、YMCAのe-ラーニングセッションを通じてさまざまなスキルを学んでいます。コロナウイルス感染拡大予防のために施設が閉鎖された後、ユースワーカーが中心となってすべてのプログラムがオンラインに切り替わり、ユニセフとの協働でこれまで600人以上の若者が40種類以上の教育プログラムに参加しています。リーダーシップスキル、アートプログラム、コミュニティ間の平和トレーニングなどが実施されており、若者が地域コミュニティの中でチェンジエージェントになるためのさまざまなスキルを学ぶことができます。今後、プログラム数も増やしていく予定で、コロナ以前と同水準の、1200人くらいの若者が参加できるようになる見込みです。



### YMCAのサポートに期待 —

#### WHO(世界保健機関)テドロス事務局長のメッセージ

COVID-19によって、私たちのレジリエンス(回復力)は試されています。私たちは、老いも若きも皆、驚き、不安に感じています。このような時、YMCAのようなコミュニティに基盤を置いた組織は、とても重要な役割を果たすことができるのです。

正確な情報を広め、離れていても人々の社会的なつながりの強さを維持していくことができます。(#はなれていてもつながっている、ということ発信し続けることができます。)特に重要なのは、若者へ、自分の健康、そして家族の健康を自分自身の手で守るためにできることがたくさんあるのだ、というメッセージを伝えることです。きちんと食べ、よく学ぶことです。コミュニティレベルでは、衛生状態を保ち、社会的距離を保つというルールを守ることです。

若者が地域の高齢者などに向けて食事や生活必需品を、安全な方法で届けるというプログラムを始めたところもあると聞いています。

### バングラデシュ・ビリシリYMCA

#### — コロナウイルス感染拡大防止のための意識啓発キャンペーン

ビリシリYMCAは3月29日、アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)のピーススクール同窓生を中心にユースフォーラムを開催し、ウイルス感染拡大を防止するアクションプログラムを開始しました。ビリシリの村や市場などで消毒液の散布を定期的に行い、意識啓発キャンペーンを行っています。リーフレットを配って感染防止に関する正しい情報、正しい手の洗い方や家にいることの意味、集会を避けること、社会的距離を保つことなどについて知ってもらうために、リーフレットを配っています。これまでのところ100の店舗と350世帯に届けています。村人がきちんとマスクをつけ、手袋をつけることを実践できるよう、キャンペーンを推進しています。



YMCAには、ぜひ、若者がデマや誤情報に惑わされず、事実を見極め、行政や政府・厚生労働省、医師、そしてWHOのアドバイスに耳を傾けていけるよう、サポートしていただきたいと思います。

YMCAのご協力に心から感謝いたします。今、この時、私たちはみんなで力を合わせて難局を乗り切らなければなりません。

感謝をこめて。